

【大会規定】

1. 1チームの登録選手は11名以上25名以内とし、登録された選手の変更は認める。
2. 出場選手は大会登録の締め切り日現在、連盟への登録済みの者に限る。
3. 審査証は今年度発行のものとする。
4. 登録選手および登録された監督・コーチ・マネージャーのみベンチに入ることができる。
5. 組合せの若番号が1塁側のベンチ、後番号が3塁側のベンチに入る。ただし、チーム責任者・監督・コーチは登録証を携帯すること。
6. 監督（背番号60）・コーチ（背番号50）は選手と同じユニフォームを着用し、選手と同色・同ラインのスパイクまたは運動靴を使用すること。
7. 各チームは試合開始予定時刻60分前に試合場に到着し、直ちにメンバー表5部を球場責任者に提出して所定の審査を受けてください。
8. 審査終了後、両キャプテンにより先攻・後攻をジャンケンで決める。
9. 試合開始予定時刻までにチームがグラウンドに現れないときには、球場責任者と責任審判員が協議して没収試合を宣言することができる。
10. 試合方式など
 - (1) 試合は7回戦、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から2時間を超えた場合、新しいイニングには入らない。同点の場合は最終メンバー9人での抽選で決める。ただし、決勝戦はタイブレークとする。
 - (2) 降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合は、4回以降であればコールドゲームが成立、3回以内であれば、サスペンデッドゲームとする。同点の場合は最終回時点で、出場していたメンバー9名での抽選とする。
 - (3) 4回終了時10点差・5回以降7点差の場合、コールドゲームとする。
 - (4) 最終回を終わって同点の場合は、最終メンバー9名全員の抽選により勝敗を決定する。
11. 投球数に関する制限
 - (1) 1日最大80球とし、連続する2日間で120球以内とする。連続する2日間で80球を超えた場合は、3日目は投球を禁止する。また3連投（連続する3日間）する場合は1日の投球数を40球以内とし、4連投（連続する4日間）は禁止する。
 - (2) 大会中は1日80球以内とし、翌日投球を休めば3日目は80球の投球を可とする。
 - (3) (1)～(2)を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球数にカウントしない。
 - (4) 連続する2日間で80球を超えた投手、並びに3連投した投手は、登板最終日並びに翌日は捕手としても出場できない。
 - (5) ボークは投球数としない。
 - (6) 雨などのノーゲームになった試合は投球にカウントする。
 - (7) 2年生以下が投手の場合も上記に準ずるが指導者は十分考慮する事。

12. 監督・コーチの指示に関する制限について

- (1) 監督またはコーチが投手のもとへ行く事に関して、規則 5.10(1)を適用する。
- (2) 監督またはコーチの指示は1試合で攻撃2回と守備2回の計4回とする。決勝戦でタイブレークに入った場合は、それ以前の回数に関係なく守備・攻撃それぞれ1回のみ指示を認める。
(選手の怪我は回数に入らない)。スピードアップの観点から投手のもとへ行く事だけではなく、監督またはコーチが選手を呼んで指示する行為も回数に数える。
- (3) 投手および野手を交代する場合は、ファウルラインを越える前に球審に交代を通告しなければならない。ファウルラインを越えてから交代を通告した場合は指示の回数に数える。
- (4) 選手の怪我・事故等で監督・コーチがファウルラインを越えても回数には入らない。
- (5) 投手に対する指示が3回目になれば、その投手は自動的に交代しなければならない。
- (6) 投手が投球練習を始めても監督・コーチがマウンド付近に留まった場合は指示1回に数える。
- (7) 野手(捕手を含む)が2人以上投手のところへ行った時も指示1回に数える。
- (8) 1イニングで同一の投手に対して指示が2回目となれば、その投手は自動的に試合から除かなければならない。
- (9) 野手(捕手を含む)のタイム取得回数の制限について

野手(捕手を含む)がタイムを取得しマウンドの投手のもとへ行ける回数を、1イニングにつき1回1人のみに制限する。

①投手が交代し、準備投球後に捕手がマウンドの投手のもとへ行く事は回数に数えない。

②決勝戦でタイブレークに入った場合はイニングの回数に関わらず1回のみ取得可能とする。

- 13. 監督またはコーチが投手に指示をするときはマウンドのところで行うこと。(ベンチから駆け足) また、審判がタイムを宣告してから「30秒以内」とする。
- 14. 監督、コーチおよび選手は、審判のジャッジに対して絶対に服従し、抗議することを厳禁する。
ただし、規則上の疑義申し出については、監督または問題の当事者のみが審判に説明を求めることができる。この場合「3分以内」に規制する。
- 15. 走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
- 16. ボール回しをするときは一回りとし、最終野手はその定位置から投手に返球する。また、打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。
- 17. 投手は、打者をアウトにする意思がないのに無用の牽制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。
- 18. 各チームは同色のヘルメット7個以上、捕手の規定防具(マスク・捕手用ヘルメット・プロテクター・レガーズ・スロートガード・ファウルカップ)2組を備えること。
- 19. ユニフォーム、バット、ボール、スパイク、グラブ等は連盟指定業者のものに限る。
- 20. 捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。
- 21. グラウンド内での投球練習は試合中の選手に限る。
- 22. 試合前のシートノックを行うか否かは、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案して球場責任者が決定するものとする。
- 23. グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に制定された場合は、それに従うこと。

24. ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。
25. 光化学スモッグ発生（予報、注意報、警報）の場合、試合および選手に対する措置は、運営委員の指示に従う。
26. 大会中の負傷については応急処置を行うが、それ以外の責任は持たない。
27. その他の規定は、（公財）日本少年野球連盟の規定に従う。

以上